

# The importance of taking over issues on organ transplant to younger generation



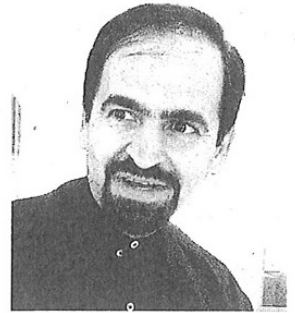
(Shimotsuke Newspaper dated July 17th. 2007)

# 1st. *U-Talk* Symposium

44th Convention for Japanese Transplant Society in Osaka on Sept. 20, 2008







イスタンブール宣言  
かじ取り委メンバー  
アリレザ・  
バゲリさん(42)

Alireza Bagheri  
イランで内科医として勤務  
後、00~06年、筑波大と京都  
大で生命倫理を学ぶ。04年、  
筑波大大学院博士課程修  
了。08年からテヘラン大  
教授と現職。

### 臓器移植法改正で 日本の提供数は増えますか

—日本で7年間、脳死と臓器移植について研究し、アジアの移植事情にも詳しい立場から、国際移植学会が08年に採択した「イスタンブール宣言」策定の中心メンバーとして活躍されました。イスタンブール宣言が目指す移植医療の方向を教えてください。

## 努力で機会増につなげよ

1968年に北海道で日本初の心臓移植が実施されたが、残念な結果に終わった。脳死からの臓器移植はタブーとなり、医師は移植を避けるようになった。一方、宗教的側面もある。仏教には「四十九日」という考え方があり、「本当の死体」になるのは、死後四十九日にあの世に旅立ってからという。腎臓などは心停止後も提供できるが、日本では提供が少ない。つまり、「脳死は人の死」と認めるかどうかとはあまり関係なく、消極的な医療者の姿勢と、宗教観によって、臓器提供を好まない社会、文化になってい

## インタビュー 急接近

◆イスタンブール宣言の目的は、臓器売買など不適切な移植医療を減らすことだ。臓器移植は、20世紀の医学的奇跡の一つだが、先進国の患者が貧困に苦しむ途上国の人々を巻き込む臓器売買などの報告も寄せられるようになった。そこで、各国に自国内での臓器移植の自給自足、脳死だけではなく心停止後の移植の拡大も促し、臓器売買につながりやすい生体移植の最少

器提供が極端に少ない日本では、提供条件の緩和と提供増加が期待されています。

◆法律が改正されるだけでは、日本の臓器提供数はほとんど増えないだろう。日本には、高い技術があり、医師もおり、お金もある。法改正によって、提供条件も世界的国々と同レベルになる。それでも増えないのはなぜか。臓器移植に対する社会の理解、容認が低いからだ。

—改正法は国内の移植増加に無意味でしょうか。

◆そうではない。いいチャンスになる。今こそ、社会と医師への教育を真剣に始めるときだ。筑波大で医学部学生にアンケートをしたとき、「脳死になっても治療法がある」との答えが6割近かった。患者が大人であれば、脳死になると治療法はないのに、だ。イランでも90年代後半、臓器

## 教育によって、すべてドナマ

チックに提供が増えることはない。だが、法改正だけで社会は変わらないし、日本が抱える問題は解決できない。

\*We cannot expect drastic increase in the number of donors. On the other hand, the society won't be changed only by the ammendment of related law that neither gives any solution to the issues with which Japan has been facing at the moment. (Dr. Alireza Banheri, Iranian doctor; a committee member of "Istanbul Declration" in 2008.



# *U-Talk in Tochigi*

(Nov. 29, 2008 at Jichi Medical University)

